

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 東めむろふれあい館1	評価実施年月日	平成21年10月27日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年10月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	運営方針に「社会とのつながりを考え、さまざまな人とのふれあいを大切にすると掲げている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念をホーム内に掲示し、日々の業務やケアカンファレンス時に具体的なケースを取り上げ、理念の実践を行なっている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議で地域の中で暮らすことを目指していることを説明し、協力をお願いしている。契約前に事業所の理念を説明している。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の高齢者住宅を訪ねることが多く、挨拶や声を掛け合うことは多い。GH退去者がマンションに住んでおり、時々遊びにきてくれることがあり、こちらからも訪問している。ご近所様の方々には職員からの挨拶はもちろんのこと、散歩中、高齢者からも挨拶を行う関係を築いている。	○	近隣のシニアマンションの方との交流をもっと深めていきたい。ドライブや行事と一緒に参加できるようになりたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入している。運営推進会議で町内会の方々と情報交換を行ない各種行事への参加をお願いしている。防災訓練に参加してもらっている。	○	町内会野行事への参加、花見や夏祭りを通じて交流を深めたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近隣の高齢者住宅の方々との交流を深め、行き来しあったり、ドライブ等の行事を一緒に行なえるよう誘いあっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員に自己評価の意味を説明した上で、で自己評価に取り組み、客観的に評価することを心がけている。外部評価は実施後、調査員の意見を真摯に受け止めすぐに改善するように取り組んでいる。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、活動報告や事故報告を丁寧に行ないホームでのサービスや課題を説明している。委員からの疑問点や意見は参考にしてサービス向上に役立てようと取り入れている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設長が定期的に包括や介護保険課の担当者と意見交換を行っている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についての研修を行なっている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止の研修を行ない職員全員が受けている。カンファレンスで具体的な事例を用いて、グレーゾーンの不適切なケアを改善するように検討している。	
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に項目一つ一つを丁寧に説明し、承諾していただいている。疑問点は契約後も質問があれば十分に説明する機会を設けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者に直接、生活で困っていることがないか日常の中で確認している。希望があれば改善できるように配慮している。家族の面会時に入居者が困っていることがないか確認している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月お便りを送付し、日々の生活の様子、健康状態を報告している。お小遣い明細書を請求書と一緒に送付している。職員の異動があればお便りでも報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時に入居者の苦情がないか相談している。苦情受付窓口を掲示するとともに、契約時に説明している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスを通じて全体で運営に関する意見を話せる機会を設けている。日々の業務の中で疑問があればその場で答えたり、管理者から職員に話しかけて意見を吸い上げるように努めている。	○	意見をもっと吸い上げられるように管理者が職員に耳を傾け、職員は自分の考えを形に出来るよう意見を言える雰囲気を作り上げていく。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	夕方の混乱が激しい方がいるため、つきっきりで手厚く対応できるように人員を調整している。遅い時間でも混乱が治まらない時は残ってもらい、時間調整をしている。行事で外出する時は人数を多く配置している。	○	遅番や早番を取り入れられるように勤務時間を調整していきたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	この秋に職員がたくさん交代しているが、もともと2階の職員であったりと顔なじみであったため影響は少なかった。職員が交代しても継続したケアを行なうように注意し、環境の変化を与えないようにしている。	○	なじみの関係を早く築き、入居者の信頼を少しでも早く得られるように努力する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人、中堅、パート、管理者と段階的に分けた研修体制をとっている。研修は年間計画をたてて行なっている。内部研修だけでなく、十勝支庁やグループホーム協議会の研修に出席できるように配慮している。</p>	○	<p>勉強会が不足しているので、認知症ケアや基本的な研修を行なう回数を増やしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>十勝グループホーム協議会の相互研修に参加し他事業所2件を訪問し見学させてもらっている。同協議会に加盟し研修に参加しながら、ネットワーク作りを行なっている。</p>	○	<p>他事業所との相互研修はこれからも続けてケアの質を向上させて行きたい。また、法人内のGHとも相互研修を行ない、様々な場所を見学し、勉強していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員間の親睦会を行ったり、ケアの疑問点や悩みを管理者が聞いたり、同僚で話し合う機会を設けている。残業は極力行わないように無理な業務を見直している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>年に2回、職員評価を行い個人に直接運営者より話をしている。管理者は職員に対して業務の評価を出来るだけ直接伝えて、個々の仕事が良いか悪いかを判断できるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に事前面談を行い、不安や困っていることを聞いている。家族から概要を聞いて整理したうえで本人と会っている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談時から、時間をかけて家族の問題点や悩みを聞くように努めている。よく話し合った上で利用の手続きを行なうように努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に、グループホームのケアが必要かどうかサービス内容をきちんと説明した上で利用者にとって最適のサービスを選択するようにアドバイスしている。相談にきた結果、シニアマンションの利用を選択した方もいた。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に本人に会いに行き、顔を覚えてもらってから入居するように配慮している。家族から本人に事前の説明をお願いし、ホームの入居者には前もって入居する方の説明を行い、混乱を防ぐように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者をお客様にしないように注意し、常に生活の主役であり続けられるように主体性を尊重している。生活の中で活躍できる場を設けるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ケアは家族の意見を必ず取り入れ、入居者にとって何が良い生活かを一緒に考えている。ケアで悩んでいる時は家族に相談する。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族関係をしっかりと把握し、お互いに適度な関係を保てるように配慮している。各家族ごとに別々の対応を行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域とのつながりが途絶えないように地元のお祭りに参加したり、買い物に出かけている。病院に行くとき古くからの知人に会えるため、そこでの出会いの機会を維持できるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者一人一人の性格に応じ、関わりが持てるように支援している。思いやりが行き過ぎて混乱を招くことがあるため、さりげなく間に入り制止することがある。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去した入居者がシニアマンションにおり、時々遊びに来ることがある。その際はゆっくりしてもらえるようにもてなしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とゆっくり話をし、家族を含めて個人の希望、意向の把握に努めている。生活の中でつぶやいた言葉に耳を傾けたり、言葉の裏にある想いをくみ取れるように努めている。	○	家族との意見交換をもう少し行なっていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居までのアセスメントをセンター方式で行ない、生活歴やなじみの生活を把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活を24時間シートを用い記録し、変化のある生活になるよう努めている。体調の変化に応じて、役割を休んでもらう等その都度ケアを変更している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員がチームの中心となり、本人、家族と希望を取り入れ、入居者担当スタッフから日々の生活の様子を聞きながらアセスメントをとり、本人のニーズに即した介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行なっている。入居者の状態が介護計画に合わない状態に変化すればその都度、本人、家族と相談しながら現状に即した計画作成を行なっている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に基づいた記録を行ない、必要に応じて水分、排泄チェックを行なっている。課題や目標に即した記録から、介護計画の評価を行える情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者や家族の希望に応じ、外泊や外出の支援はその都度対応している。認知症ケアのアドバイスを相談に応じて家族に行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアは定期的にはひよっこ踊りやマジックの方々にきて頂いている。消防は年2回の防災訓練時、ホームに来てお話をしてもらっている。警察とは緊急時の対応をお願いし名簿を渡して協力体制をとっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居前には担当のケアマネジャーと連絡を取り、情報を把握した上での入居につなげている。他サービスに移行する際は、情報提供書を作成し円滑に移行できるよう支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括の方が来て下さり、ケアへのアドバイスや意見を伺っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個別のかかりつけ医を把握し、継続した治療を受けられるよう支援している。ホームでの受診が多いが、診察内容は家族に報告して、何かあれば意見をもらえるようにしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>精神科の専門医と連携しながら、日々の状況を報告、相談してアドバイスを頂いている。その他の病院の医者とは個人の状況に合わせた対応をお願いし、お互いに安心して診療を受けられる体制を築いている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>週1回、看護師が来て健康チェックを行ない、健康管理や病院受診のアドバイスを受けている。看護師と入居者の関係は良好で直接相談にのってもらっている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時は病院と密に連絡をとり、病院にも頻りに面会に行き、本人がホームを忘れないように配慮している。退院を出来るだけ早く行なえるよう、働きかけている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化や終末期の対応指針を作成し、入居時に家族に説明して希望を伺っている。入居者の状態変化に合わせてその都度、どのような気持ちでいるか確認している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>常時医療行為が必要な状態になると入居を継続することは難しくなる。食事をとれなくなった時の対応がどこまで可能かどうか判断基準になることが多い。入居者、家族の意向を聞きながら「何ができるのか」「どうしたいのか」をその都度考えている。</p>	○	<p>今後も、重度化に向けてどのように取り組んでいくか、具体的にどのような状態になれば退去を考えるかなどのケースを検討していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入退去時には、各関係機関と情報供給を行ない継続したケアが行なえるように協力している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>記録には個人名を出さず、イニシャルで記入し持ち出し禁止している。声をかける時に頭から否定せず本人の話を聞いて、相手が気持ちよくなるような関わりをするようにしている。本人のプライバシーに関わることは人前では話さず、場所を変えてするようにしている。</p>		
<p>51</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>何事もスタッフが勝手に決めず、必ず本人に聞きながら意思決定を行なう。その都度、本人の理解力に合わせた説明を行なうようにしている。</p>	○	<p>職員の一時的な思いで、入居者を説得しよう、動かそうといった関わりが見られるので、入居者の心をくみ取れるような関わりを行いたい。</p>
<p>52</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日課を決めず、その日の気分や雰囲気に合わせて毎日何を行なうか決めるようにしている。行事での外出は個人の意見を尊重し行きたくない方は行きたくないと言いやすい雰囲気を作れるように努力している。入浴は本人の意思に合わせていつでも入れるように毎日聞いている。</p>	○	<p>バイタル測定や掃除、調理は職員のペースで行なっていることが多いため、やらなければいけないという業務に対する義務感が入居者のペースを制限していることを各職員が認識出来るように取り組みたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容、美容はホームに来て切ってもらっているが、それが今は馴染みの習慣になっており、楽しみにしている入居者がいる。姉妹がやっている美容室に行き、顔を見るのが楽しみの方もいる。毎日化粧する方がおり、化粧品を一緒に買いに行くこともある。洋服は、朝や入浴時に着替えを選ぶときに2択でも好きな服を選んでもらえるように配慮している。</p>		
<p>54</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>各利用者の好みを出来るだけ把握するように努めている。食事作りの時に一緒に調理をしたり、配膳や片付けを行なうようにし、食事の前後から意識できるように促している。スタッフが食べ終わっても、入居者が終わるまで待ってから片付けを行ない、食事を急かさないように配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒、タバコを飲む方は現在はいない。おやつやジュースは本人の好みを把握し、一緒に買い物に行った時に選んでもらうことがある。食べたい物を出来るだけ制限しないようにしながらも、本人の健康状態に合わせて、過剰にとりすぎないように配慮している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	必要な方には排泄チェックを行ない、排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導を行ない、失敗が減るようにしたり、汚れて不快な時間が少しでも短くなるようにしている。出来るだけトイレで排泄できるように取り組んでいる。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	お風呂は毎日沸かし、希望があれば入ることが出来るようにしている。無理な機械的な入浴にならないよう利用者の意見を尊重し、気持ちよく入れるようにしている。入浴時間がゆっくりとれるように心がけている。	○	職員のペースで促していることがあるので、お風呂にいれるという関わりにならないように気をつけていきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夕食後、思い思いに各自のんびり過ごしてもらえるように関わり、自然に眠くなってから入床するように促している。夜は興奮しないように静かに話しかけ、物音をあまりたてないよう配慮している。特に消灯時間は設けず、起きていたい方は気兼ねなくリビングで過ごせるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌謡曲を聞かれるのを楽しみにしている方、配膳を楽しみにしている方、スタッフと一緒に仕事をするのを楽しみにしている方、一人一人の力を活かし役割分担し達成感を持ってもらうように心がけている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人の力に応じ、スーパー等に行き、希望されるお菓子を買って、お金を使えるよう支援している。自分でお金を所持している方がおり、買い物に行った時に欲しい物をその場で購入し、自分で支払う機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の体調を考慮し、戸外への散歩、スタッフと一緒に買い物に出かけたり、隣のマンションに牛乳を取りに行くなど外出の機会を日常的に確保している。玄関を開けて出かけた方には、すぐに外出できるように関わっている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見や紅葉狩り等季節を感じるイベントやバイクでの外食などを行事で行ない、外出の機会を設けている。	○	各入居者の自宅や思い出の場所を本人と一緒に訪れる機会を作りたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望により、心配事、悩み事、また家族の声が聞きたいなどダイヤル押しを援助し、いつでも電話がかけられるように支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人の面会の方々がいつでも気軽に立ち寄って頂けるよう、機会がある時はお手紙、声かけでお誘いしている。面会時間は設けず、仕事がある方には19時過ぎの面会も快く受けている。面会者に出来るだけ声をかけるようにし、職員とのつながりを持ってもらえるようにしている。	○	家族の方々と話す機会をもっとたくさん取り、コミュニケーションと情報交換を活発に行ないたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を行ない、禁止行為を職員全員に周知している。日頃から身体拘束になりそうなケアについては具体的な行為を取り上げて話しあっている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中鍵をかけない取り組みを行っており、9月より全面的に日中は解放している。そのための、職員の動きや配置を日々話し合っ入居者に負担がかからないように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室に入る時にはノックをしてから入室、居室のドアは開けたままにしない。利用者様のプライバシーに関することはメモに残し大声で話さない。常に利用者様がどこにいて何をするかを見守り安全に配慮している。	○	一瞬でも目を離すと外に出て行ってしまおう方がいるので、緊張感をもって見守りを行なうようにする。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者様が使用目的等を理解出来ない物や誤って口に入れそうな危険のある物は職員が管理保管している。個人ごとにアセスメントを行い、自己管理できる方には、はさみを持ってもらっている。	○	アセスメントを繰り返し行ない、その方の能力を再評価し、出来るだけ物を取り上げないように取り組んでいく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者様一人一人を把握し、何が事故に繋がるかを考え、防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生時にその都度ケース検討会を行ない、対応の指導を受けている。	○	救急法や事故発生時の処置について勉強会を行っていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練を年2回行い、入居者が全員避難できるように訓練している。町内会の方にも呼びかけ、訓練時に参加して頂いている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプランにおいて、事故の危険性を明記し家族にケアの説明を行なっている。安全性を重視し、自由のない抑圧した生活にならないよう配慮していることを説明し同意して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々のバイタル測定で体調を観察し、不調時には1日の様子を記録に残し、申し送り等で職員と情報交換を行なっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の薬説明書があり、通院後や変更時には、申し送りで報告。薬の在庫も確認し頓服薬等多く処方されている時は中止したりと、薬の状態を把握している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘状態をチェックし頓服として下剤を服用して頂き気持ちよく排泄できるよう調整を行なっている。自然排便が出来る方には便座に座る機会をつくり対応している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後のうがいや歯磨き、入床時には義歯洗浄を行なっている。口腔内の状態も観察をし、異常がある時には早期に歯科受診を行ない清潔保持をしている。しかし、全員が毎食後に行なえていないため、今後の課題となる。	○	口腔ケアの大切さを職員一人一人が持ち、全員が毎食行なえるよう支援する。正しいブラッシング方法等歯科衛生士に習得する機会を作る。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事意欲が増すよう、彩りを考え、主菜・副菜等バランスの取れた食事を作っている。体重減量している方等、各個人に応じた食事量を提供している。全員が水分チェックをしており、一日の量を確認できる表を作成し水分確保を心がけている。	○	食事以外でも水分を摂れるよう職員からの働きかけをし、一日の摂取目標を定め確保できるよう努める。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	外出後には手洗いをし、汚物取り扱い後にはアルコール消毒を行なう等感染予防に対応している。感染症マニュアルが用意してある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は冷蔵・冷凍庫を使用し賞味期限に注意している。清潔保持のために冷蔵庫の整理整頓や台所掃除等を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りは明るく、人形、季節の物等を飾り、外には花壇、菜園を作り季節を感じる配慮をしている。	○	玄関の外回りが殺風景なため、夏場には花をおくなど飾り付けを行ない、親しみやすい玄関周りを作りたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム、室内は空気の入替えや清潔を保つよう心がけている。天気の良い日には、寝具をデッキで日干ししている。照明は明るすぎないように調節している。リビングには観葉植物を置いている。	○	室内空間がさっぱりしているため、生活感が出るように飾り付けや模様替えを行なって行きたい。季節感が出るような演出をもっと取り入れたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	広いスペースのため、一人になりたい時は開いている空間が多くそこを選んで過ごすことが出来る。入居者の固定的な座席はあるが、そこにとられず、その時の雰囲気ですべて自由に過ごすことが出来るように職員が仲介している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、以前より使用されていた馴染みの家具を持参して頂き安心して過ごせるようにしている。室内は本人の居心地の良ようにスタッフも協力し、飾り物、写真をおいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気のおよみ、換気は午前、午後、窓を開放し空気を入れ替えている。臭いに関しては消臭剤を使用。温度調節も日にあわせて行ない、冬場は出来るだけ熱すぎないように心がけている。暖房が入る頃には加湿器を置き湿度を調整している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ、風呂場、各部屋には手すりを設置し、玄関には靴を履きやすいように椅子を置いている。廊下幅が広く造られ車椅子移動時はゆとりをもって通ることが出来るため、安全性を保てる。入居者の身体状況に応じて手すりを追加したり、ベッドの手すりを設置する等個別のニーズに対応できるよう配慮している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>あまり物を置きすぎないようにして物を使いやすいように配慮している。室内の蛍光灯は、ひもをつけて引っ張りやすいようにしている。</p>	<p>○</p> <p>分かりやすい工夫をもう少し検討し、声をかけなくても出来ることが増えるように取り組んでいきたい。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気の良い日にはベランダに出てひなたぼっこをしたり、焼き肉やスイカ割りを行なうことがある。そこから菜園や花壇を眺め、季節を感じられるようにしている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

日々の生活で入居者様の意思や行動をできるだけ尊重し、ご本人のペースで無理なく生活できるように配慮している。行きたい時に行きたい所に行けるように、休みたい時に休み、お風呂に入りたい時に入れるよう、いつでも希望に対応できるように心がけている。自由な生活の中でも、個人のプライバシーは尊重し入居者同士がストレスを感じないような人間関係を作れるよう、職員が仲介している。

あまり、一日の中で動きが少なくならないよう、こまめにに関わり、移動やトイレでこまめに身体を動かせるようにしている。外出だけでなく、デッキや2階に上がる等身近な場所での散歩も取り入れている。

施設での生活が孤立しないように、家族との面会を定期的に行なえるよう取り組み、自らが地元に戻りご家族と交流できるように支援している。